

# 令和4年度第1回草加市社会福祉審議会会議録

## 1 開催日時

令和4年7月11日（月）午前10時から正午まで

## 2 開催場所

紅藤カナダビル2階 職員研修室

## 3 出席者の氏名

- (1) 委員 小林 紀之委員、水間 久頼委員、安原 陽平委員、  
帙溪 文有委員、清田 幸子委員、齋藤 幸子委員、  
榎本 武彦委員、岡村 圭子委員、川越 雅弘委員、  
大久保 啓介委員、小暮 徹委員、安藤 一浩委員、  
岡田 美智子委員
- (2) 事務局 坂田健康福祉部長、今野健康福祉部副部長、  
廣川福祉政策課課長補佐、井上福祉政策課政策総務係長、  
神尾福祉政策課主事

## 4 会議の次第

- (1)開 会
- (2)委員紹介
- (3)事務局紹介
- (4)会長及び会長代理の選任について
- (5)議 事
  - ①令和5年度に策定予定の草加市地域福祉計画の基本的事項等について
  - ②その他
- (6)閉 会

## 5 公開・非公開の別

公開

## 6 傍聴者数

0人

## 7 主な委員からの意見及び事務局からの回答

### ○ 令和5年度に策定予定の草加市地域福祉計画の基本的事項等について

① 目指す地域のあり方の考え方の一つとして「だれもが自分らしく暮らせること」とあり、具体的には一人ひとりが自分で意思決定を行いながら、状況・状態に応じて自分らしく暮らせることとのことだが、「状況・状態に応じて」という言葉はあえて使わなくても良いと感じた。また、担い手の活動の活性化や参画において、地域住民等が社会福祉に関する活動に関心を持ち、参加できるような環境が必要であるなど、「環境」という言葉が使われているが、「仕組み」に変更した方がイメージしやすいのではないか。【意見】

② 地域福祉推進の担い手について、具体例が挙げられているが、みんなで支え合うのであればフォーマルやインフォーマルなど、区別ける必要はないのではないか。【意見】

③ 地域福祉計画の理念を「自立・共生と支え合いのまちづくり」にすることについて、共存を共生へ変更することは良いことだと思うが、自立という言葉は、受け取る側にとっては自分のことは自分でやるものだという意味として受け止められてしまう危険性があるため、「自分らしさ」など柔らかい表現に変更した方が良いのではないか。【意見】

④ 地域福祉計画の理念の「自立」という部分について、自己決定というニュアンスをより出すということであれば「自律」という言葉を使うということも考えられる。【意見】

⑤ 現在、地域福祉推進基本方針と社会福祉協議会が作成する地域福祉活動計画が一体的策定されているとのことだが、分離して地域福祉計画を単独で策定しようとするということについて具体的に説明をしてほしい。  
(事務局回答)

社会福祉協議会が作成する地域福祉活動計画は民間の計画として、地域福祉計画と連携した取組だけではなく、社会福祉協議会独自の取組を記載するなど、幅広くあるべきだと社会福祉協議会としても考えているが、一体化してしまったことで、地域福祉計画と連携した取組だけの記載になってしまっている。計画策定にあたっては社会福祉協

議会と連携しながら検討していくが、計画自体は分離し、一体的策定される前の形に戻す形での策定を考えている。

- ⑥ 地域福祉計画と一体化している総合振興計画の見直しのタイミングはいつになるのか。地域福祉計画と総合振興計画の整合性は検討しなくても良いのか。

(事務局回答)

第四次草加市総合振興計画において、総合的かつ計画的なまちづくりを図るための基本構想は令和17年度までとなっているが、基本構想を実現するための基本計画の実施期間は令和5年度までとなっている。総合振興計画は市の根幹となる計画であるため、次期基本計画を策定する中で連携しながらすすめていく。

- ⑦ 社会福祉協議会は地域福祉推進にあたって、実施主体ではなく、住民等を後方支援する団体だと考えており、地域福祉計画と地域福祉活動計画を分離して作成することは良いことだと考える。【意見】

- ⑧ 社会福祉審議会の開催が12年ぶりとのことだが、地域福祉計画が一体的策定されている第四次草加市総合振興計画策定の際に社会福祉審議会が開催されなかった理由は何か。

(事務局回答)

第四次草加市総合振興計画策定の際には、社会福祉協議会は開催されていないが、振興計画審議会が開催され、必要な事項を調査審議している。

- ⑨ アンケート調査の対象者と目的は何か。

(事務局回答)

アンケート調査の対象者は社会福祉審議会の中で地域福祉推進の担い手の考え方についてご審議いただき、その答申を参考に、市民や福祉分野以外の主体を含む地域福祉の担い手をアンケート調査の対象者として考えている。アンケート調査の目的は、市の考える地域福祉のあり方に対して課題がどこにあるのか、理想と現実のギャップを抽出することが目的である。

- ⑩ 市民に対してアンケートをしても、今回のような説明を聞かないと、

理解できないと思われる。目的次第でどういったことを聞きたいのか、どのレベルのことを聞きたいのか、それは誰が答えるのかという観点から対象者を整理しなければならない。【意見】

⑪ アンケート調査について、地域福祉の担い手における現状の課題を把握し、担い手を支援する仕組みづくりや新たな担い手の参画につながるような内容にする必要がある。【意見】

⑫ 福祉分野以外の新たな担い手、例えば民間企業が行っている活動、地域のつながりや若い人が参加できるような仕組みについて、意見を聞いてみるのも良いのではないか。【意見】